



子どもたちは蒸気機関車が大好き。40号蒸気機関車の周りには、いつも子どもたちの賑やかな声が響いています。



三芳町在住の萩原さん。昨年8月2日放送のテレビ東京「出沒!アド街ック天国」がきっかけで40号蒸気機関車と再会。

40号蒸気機関車 128年の物語

役場と進修館にはさまれたコミュニティ広場に展示されている蒸気機関車はイギリス生まれの128歳。宮代町にやって来てからは、30年あまり。明治から戦前戦後の時代を経て、昭和の経済成長期まで活躍し続けた40号蒸気機関車のあゆみを紹介します。

テレビに映った蒸気機関車

三芳町の自宅でテレビを見ていた萩原さんは映像に目が釘付けになりました。その番組では宮代町役場前に展示している蒸気機関車を紹介していました。それは萩原さんも見覚えのある車両、かつて川越市の初雁公園に展示されていた40号蒸気機関車の姿でした。

50年前、萩原さんは県立川越高校に隣接した場所に展示された蒸気機関車を背景に同級生たちと卒業写真を撮影しました。

放送が終わった後、萩原さんは宮代町役場前にある40号の前で50年ぶりに記念写真を撮影することを思いつき、同級生たちに連絡しました。

「そういえば、いつの間にか初雁公園からいなくなっていたよな」と同級生たちは自分たちの過ぎ去った青春と40号を重ね合わせました。

明治31年イギリス生まれ

40号は明治31年生まれ。イギリスのマンチェスターで製造され、海をわたって日本にやってきました。のちに国有化された日本鉄道が所有しましたが、大正11年には東武鉄道に譲渡、昭和35年ごろまで東武東上線で活躍しました。

その後、電化にともない、東武伊勢崎線館林機関区に移り、電化されていない支線で貨物を運搬していました。昭和41年に引退するまで68年間、現役として走り続けました。東武鉄道で最後まで走っていた蒸気機関車の一つでした。

引退後は平成元年頃まで川越市の初雁公園に展示されていました。萩原さんたちの卒業写真はその間の昭和50年に撮影されたものです。



東武東上線を走る40号蒸気機関車。昭和28年（道村博氏撮影）



宮代町に到着してから

転機は平成元年でした。40号は川越市の公園整備計画にともない東武鉄道に返却されることになり、宮代町にある東武伊勢崎線杉戸工場にやってきました。

杉戸工場は東武動物公園駅(旧杉戸駅)の構内にありました。東武博物館の浜田館長は「杉戸工場は戦時中から蒸気機関車を整備していましたが、鉄道の電化にともない、その当時は電気機関車や電車を整備していたほか、役割を終えた特急列車や快速電車の車両などが保管されていた」と話します。40号もそのうちの一つでした。

平成6年、東武鉄道からの打診を受け、宮代町は40号を譲り受けることになりました。蒸気機関車40号は深夜に大きなトレーラーに乗せられ現在の場所に運ばれてきました。

半世紀ぶりの再会

昭和51年3月卒業県立川越高校3年A組の同級生たちは今年3月、宮代町で40号と再会しました。同級生たちは車や電車で次々に宮代町にやってきました。予定していたメンバーがそろったところで、50年前と同じように40号の前で記念撮影をしました。

卒業時、他の8クラスは川越城本丸御殿や高校の正門で撮影したそうですが、なぜか3年A組だけは40号の前で撮影をしたそうです。

「不思議ですね、その理由を誰も覚えていないんですよ」と萩原さんは笑います。40号はその理由を知っているのでしょうか。

40号蒸気機関車は今、宮代町役場前に展示されています。その「長い旅」の間にどんな景色や出来事を見てきたのだろうと想うと、感慨はつきません。

■40号蒸気機関車のあゆみ

明治31(1898)年	シャープ・スチュアート社(英マンチェスター)で日本鉄道SSbt2/4形No.212号機として製造
明治39(1906)年	11月1日 日本鉄道が国有化される
明治42(1909)年	鉄道院5650形No.5655に改番
大正11(1922)年	2月 東武鉄道に譲渡 B4形No.40に改番 川越機関区所属 東上線で運行①
昭和35(1960)年頃	東上線電化により館林機関区に転属
昭和41(1966)年	館林機関区で廃車②
昭和41(1966)年	東武鉄道で最後まで活躍したSL5両のうちの1両
昭和41(1966)年	12月 川越市初雁公園に保存③
平成元(1990)年頃	東武鉄道に返却(東武伊勢崎線杉戸工場へ)④
平成6(1994)年	8月 宮代町コミュニティ広場に移設⑤



多田駅(栃木県佐野市)さよなら運転。昭和41年6月30日(笠原正男氏撮影)



川越市初雁公園に置かれた40号蒸気機関車と昭和51年卒業県立川越高校3年A組のみなさん。撮影は昭和50年。



▲杉戸工場構内、切戸踏切付近に置かれたモハ6101と40号蒸気機関車(平成6年ごろ)。この場所は現在、東武動物公園西口の無印良品、広場、駐車場などがある一帯にありました。昭和18年から操業していましたが平成16年に閉鎖となり、南栗橋工場に統合されました。駅前の整備に合わせて建物は平成23年に解体されました。



◀東武博物館の浜田館長は「明治にイギリスで作られ現役で昭和40年代まで走り続けた機関車は全国でも貴重な存在でした」「杉戸工場は東武鉄道にとって車両整備を行う重要な場所だった」と話します。



▲▼平成27年、東武動物公園西口整備時に、ここにあった東武鉄道杉戸工場の記憶を永く残すために、線路のイメージで広場を舗装し、使われていた転轍機(てんてつき)やレールの一部をモニュメントとして設置しました。



▶各地から集まった同級生たちは50年前の思い出話で盛り上がり、作られた歌「五十年目の卒業写真」をみんなが歌いました。来られなかったミュージシャンの同級生、服部さんが作った歌「五十年目の卒業写真」をみんなが歌いました。

▲卒業写真と同じアングルで記念撮影